

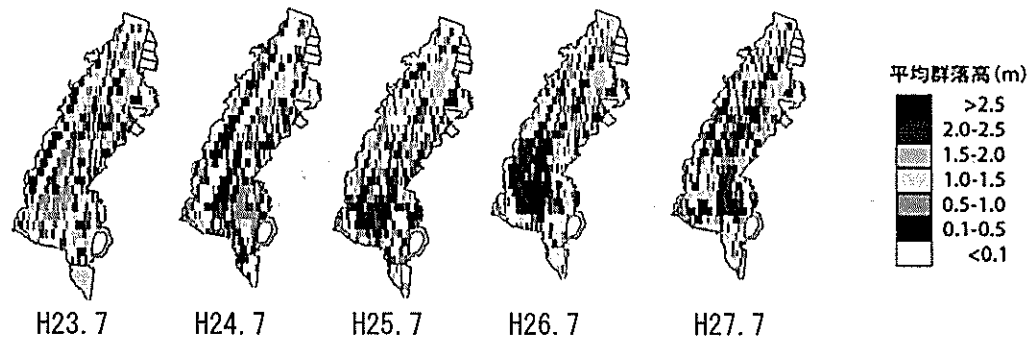
水草対策について

1. 今年度の水草の繁茂状況

4月から5月にかけては、ウログレナ等のプランクトンの増殖により琵琶湖の透明度が低かったことなどが原因で、初夏に向けて繁茂するコカナダモ等が少ない状況であった。

その後7月までは落ち着いた状況にあったが、8月に入り、夏から秋にかけて繁茂するクロモなどが目立つようになってきたところ。

【水草平均群落高の経年変化（琵琶湖博物館提供）】



2. 刈取り除去の状況

- 表層刈取り：繁茂状況を調査しながら実施中。10月中旬まで実施予定。
- 根こそぎ除去：4月～7月に第1回目を実施。今後は秋季および冬季に実施。

平成 28 年 8 月末までの 水草刈取除去量		刈取除去量 (t)			作業期間
			南湖	北湖	
県全体	表層	916.6	795.9	120.7	6/29～8/31
	根こそぎ	1425.8	1425.8	—	4/20～7/8
	合計	2342.4	2221.7	120.7	

平成 27 年 8 月末までの 水草刈取除去量		刈取除去量 (t)			作業期間
			南湖	北湖	
県全体	表層	1504.3	1423.3	81.0	6/18～8/31
	根こそぎ	2304.4	2304.4	—	4/12～6/26
	合計	3808.7	3727.7	81.0	

3. 水草対策の高度化に向けた取り組み

(1) 水草対策技術等開発事業

企業や大学などが実施する技術開発等に対し、必要な経費の最大2分の1を補助することとし、5月13日から6月24日まで募集を行ったところ、7者から申請があり、選考の結果、以下の3者の事業を採択。

- ①(株)明豊建設：水草を嫌気的な発酵により3ヶ月程度の短期間で堆肥化する実証試験等を行う。
- ②滋賀県立大学：水草を発酵させメタンガスを生産するとともに、その過程で発生する消化液の利活用に関する新技術開発を行う。
- ③(株)リ・クープ：水草を菌を用いた処理装置によって分解し、24時間での堆肥化を目指す。

(2) 水草対策アイデア募集（7月29日～募集中）

水草対策のアイデアや提案を一般の方々や企業等から募集し、提案のあったアイデアを県ホームページで公開するとともに、今後の県の水草対策に活用していく。

4. 赤野井湾のハスの生育不良について

現在、水生植物園「みずの森」をはじめ草津市を中心に調査が進められており、琵琶湖博物館や農業技術振興センターなど県関係機関もこれに協力しているところ。

さらに、れんこん栽培の専門である徳島県農業研究機関や、生態学の視点から滋賀県立大学名誉教授にもご協力いただき、知見の収集に努めている。

考えられる原因としては、病害虫、食害、土壌条件等があるが、10月頃を目途に、草津市を中心に調査結果を取りまとめる予定。

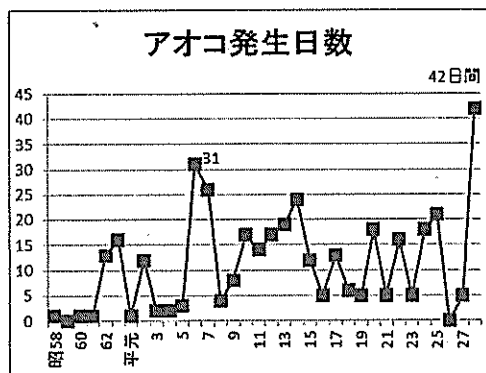


5. アオコについて

アオコは昭和58年に琵琶湖で初めて発生が確認されて以来、昭和59年および平成26年を除いて毎年発生が確認されている。今年のアオコは、7月25日に発生が確認され、発生日数および発生水域は42日間13水域と過去最多となったが、9月16日以降は発生していない。

アオコは、降水量が少なく晴天が続き、気温が高いときに発生しやすくなる。今年はこのような増殖しやすい気象条件に加え、水草の繁茂が少ないことも発生量の多い原因と考えられる。

今後も監視パトロールにより情報を収集し、アオコの発生が確認された場合には、県ホームページ「今日の琵琶湖」への掲載をはじめ、関係機関へ情報を提供していく。



※レベル【アオコ発生の程度を7段階評価したもの。4以上をアオコ発生としている】

- ・レベル4：水表面を膜状にうっすらとアオコが覆う。
- ・レベル5：水表面に厚くマット状にアオコが覆う。
- ・レベル6：アオコが腐敗し湖面を覆い、悪臭を発する。